

「知事とのフレッシュトーク」（平成25年10月9日実施）の概要について

「知事とのフレッシュトーク」は、知事が高校生の皆さんと県の未来について意見交換を行うものです。

平成25年10月9日（水）に三戸町の県立三戸高等学校において実施した、「知事とのフレッシュトーク」の概要をお知らせします。

青森県立三戸高等学校の概要

1927年（昭和2年）に三戸町立実科高等女学校として設置され、2017年（平成29年）に創立90周年を迎える、県南地域における伝統校である。

3学年は普通科・商業科合わせて定員105名。2学年、1学年は普通科のみの募集で、それぞれ定員70名となっている。

商業科は平成24年度から募集停止となったが、平成25年度よりコース制が導入され、「人文・数理探求コース（国公立大学等を目指し、発展的な学力を身につける）」、「総合教養コース（進学・就職に向けて基礎学力を重視）」、「ビジネス・マネジメントコース（経営者としての視点や資質を身につけるため、ビジネスを実践的に学ぶ）」に分かれて学習活動を行っている。

◆開催◆

【校長歓迎のことば】

三村知事、ようこそ三戸高校にお出でくださいました。知事とのフレッシュトークを生徒、教職員一同本当に心待ちにしていました。本校は、地元で頑張っていこうという生徒が、教職員と一丸となって、家庭的な雰囲気で頑張っている学校です。今日は生徒が普段考えていること、そして故郷の将来について意見を述べます。知事から熱い思いを伺い、明日から生徒が目標に向かって頑張っていける力となる機会になればと考えています。

今日のフレッシュトークが楽しく、有意義な時間となりますよう、よろしく願いいたします。

【知事あいさつ】

皆さんこんにちは。今日はフレッシュな皆さんと青森県のことをいろいろとお話ができると思い、私もすごい楽しみにしていました。

少しだけ真面目な話をします。皆さんは、少子高齢化という言葉聞いたことがあると思いますが、高齢でも皆が元気でいてくれるのは、すごくいいことだと思っています。でも、最近青森県が日本一の短命県と言われているように、酒を飲みすぎて、煙草を吸いすぎて、塩分が多いものを取りすぎた結果、生活習慣病になって、40代、50代で亡くなる方が多くなっているのが問題になっています。

そして、子どもたちが少なくなってきたのも、青森県ですごく大きな課題になっています。県として、子どもも含め若い人を増やすためにはどのようなことをしたらいいん

だろうと考えた場合、やはり皆さんの働く場を確保することが大事だと思います。高校生の皆さんからは、働きたいと思える場所があり、かつ、少し楽しめる場所がほしいということも言われています。今日は皆さんとそのようなことも含め、いろいろと話をしたいと思っていました。

それから、皆さんがどのように自分の人生に向かって歩もうとしているのか、どれだけ元気があるのかということを知りたいと思っていました。突然ですが、皆さんは朝ご飯を食べてきましたか。朝ご飯をしっかり取らないと、頭に糖分が回らず、元気が出ません。何を言いたいかというと、青森県にとって皆さんは、朝ご飯みたいに元気の素だということです。小、中、高校生の皆さんが元気でいてくれると、我々も頑張ろうという気持ちになります。

今日は皆さんからたくさんのお話を聞き、青森県をよくするために、将来の青森県の主役となる皆さんのために、どのように段取りを組んでいくべきかを学びたいと思っています。よろしくお願いします。

◆生徒と知事との意見交換◆

【学校紹介】

説明者（2年、女子）

はじめに三戸高校の歴史を紹介します。三戸高校の前身は実科高等女学校といい、家政学系の技術、知識を得る女学校でした。第二次世界大戦後、三戸高等学校となり、校歌も作られました。作詞は折口信夫先生で、国語の教科書には詩人・釈道空（しゃくちようくう）として紹介されている有名な方です。

地域交流では、さんのへ秋まつりのパレードに参加し、よさこいと流し踊りを披露しています。国際交流では、オーストラリアのタムワース高校と姉妹校の提携を行っています。

また、今年度の2年生から3コースに分かれての授業が始まっています。1年生で入学した際は、2クラスで同じ授業内容を学習しますが、2年生からは人文・数理探求コース、総合教養コース、ビジネス・マネジメントコースの3コースから1つを選択し、異なるカリキュラムで学習します。人文・数理探求コースは、国公立大学進学などを目指し、応用力を身につける授業が取り入れられています。総合教養コースは、授業に芸術や家庭科などが取り入れられ、幅広い知識を学びます。ビジネス・マネジメントコースは、通称「BMC」とも呼ばれ、商業科の流れを受け継ぐとともに、コミュニケーション能力を高め、将来の起業を視野に勉強します。BMCの授業は特別講師を多く招き、大学並みの実践的な授業を行っています。今年の文化祭では地域のお店の商品を販売するBMC商店街を実施し、新聞でも取り上げられました。

ボランティア活動も活発に行っています。有志で参加するもののほか、JRC・インターアクト同好会のように、ボランティアに積極的に参加する団体もあります。オーストラリアのタムワース高校との交流は、1992年に最初の交流事業を行ってから、20年以上続けられ、これまでに10回を重ねています。次は来年度の予定となっており、オーストラリアに行き高校生の家庭にホームステイをします。学校行事の体育祭もユニークです。地域の

お年寄りや幼稚園児を招待し、一緒に玉入れや駆けっこをしています。文化祭の模擬店やステージ発表、お化け屋敷など、さまざまなイベントも行います。

部活動では商業部の活躍が目覚ましく、全国高校珠算電卓競技会の電卓部門において、昨年は個人優勝、今年は2位という結果を残しています。放送局も全国大会に毎年のように出場し、今年は昨年に引き続き研究発表部門で研究奨励賞をいただきました。



このように三戸高校は歴史や伝統を踏まえつつも、地域と共に新たな活動を行っています。どうか県民の皆様に応援していただきたいと思えます。

以上で三戸高校の紹介を終わります。ありがとうございました。

知事

普段の活動や学校の編成について、よく分かりました。ありがとうございました。

【意見交換】

発言者1（2年、女子）

私たちが勉強している「ビジネス・マネジメントコース（BMC）」では、文化祭のBMC商店街で地元の商品を販売し、大変好評でした。秋に行われる「三戸町農林商工まつり」にも参加し、地元の商品をアピールしていこうと考えています。ところで、青森県では県産品に応援するキャラクター「決め手くん」がいますが、他の地域のゆるキャラほど浸透していないように感じています。知事は「決め手くん」による青森県の地元商品の販売戦略について、今後、どのように進めていこうとお考えでしょうか。

知事

BMCコースはとてもユニークだし、実践的な勉強として、皆さんが三戸町で販売活動をするのはすごく大事なことだと思っています。

青森県の農林水産物は、カロリーベースの食料自給率で約121%（平成22年度）となっていて、全国第4位ですが、実はもっとすごいのは、りんごなどの果物が約600%、魚や野菜が約300%、畜産も含めると200%を超えるくらい、ものすごくバランスがいいです。お米をたくさん作っている他の県は、食料自給率が高く見えますが、お米だけでは生きていけません。要するに、野菜などもバランスよく食べないとはいけません。このように、食料自給率が600%や300%のものがある青森県の農林水産物を、収入として生産した農家の方に戻ってくるように販売することを真剣に考えなければならないと思いました。ですので、三戸高校の皆さんが販売、要するに出口戦略について勉強してくれていることがとても嬉しいです。

お客様に買っていただける商品や作物を作り、それがどれだけ売れたかによって、青森県の元気の度合いが違ってくるぞということで、私が知事に就任してすぐに「総合販売戦

略課」という新しい課を作り、売って売って売りまくるということに取り組んできました。その時に、青森県として一番大事にしようと考えたのが、「青森の正直」というキャッチフレーズでした。青森の正直の基本は、水作り、土作り、人作りです。これらを大事にしながら、青森県民の特徴である、こつこつと生真面目に作ったいいものを一生懸命売ろうという取組をしてきました。また、相撲の行司をイメージした「決め手くん」というキャラクターを作り全国各地に着ぐるみを設置しました。青森県内では意外と人気になさそうに思えますが、県外では幼稚園や小学校などから来てくださいますので、全国どこへでも決め手くんと一緒にセールスに歩いています。私自身りんごをプリントしたシャツを着たり、決め手くんと一緒に踊ったりして青森県の農林水産物をPRしています。



北海道は別格かもしれませんが、実は青森の産品はすごく人気があります。また、最近では、日本中の人々が青森に興味を持ってくれています。なぜかという、東北新幹線が新青森まで開業した時に、青森まで来てもらうための大キャンペーンをして観光客を増やしたのですが、県庁の「まるごとあおもり情報発信チーム」というところが、青森の様々なおもしろい情報をPRしているので、首都圏や大阪では、青森の情報がものすごく流れています。その時に決め手くんがさりげなく登場しています。

このように、決め手くんとセールスをする中で、ジャスコやイトーヨーカドーといった量販店との取引を、70億円だったものを最大で300億円まで伸ばすことができました。そのことで、農家の皆さんが作ってくれた作物を加工して販売する6次産業化という取組を、農協の婦人部の方や農家の方と一緒にしたり、新しく商売を興す人たちと一緒に販売したりしてきました。

ところで、好きな県南の食べ物は何かですか。

発言者 1

やっぱり、りんごが好きです。

知事

最近では、三戸町のりんごが県知事賞を受賞したりしています。りんごの種類では何が好きですか。

発言者 1

ジョナゴールドが好きです。

知事

香港では、りんごジュースを作る時にはジョナゴールドを入れると喜ばれます。台湾では、王林を入れると甘くておいしいと言ってくれます。私が今、自信を持ってお勧めして

いるのは、トキという品種のりんごです。黄色系のりんごで台風が来る季節の前に収穫でき、台湾などの海外ですごい人気があります。今度ぜひ食べてみてください。紅玉もおいしいですよ。スイーツを作る時は紅玉に限ります。県内のスーパーでもいろいろなフェアをしていて、私も参加していますので、一度見に来てくれると嬉しいです。あるいは、ぜひ青森県庁に入って、決め手くんと一緒に私の仕事を手伝ってほしいと思います。

将来の夢は何ですか。

発言者 1

将来の夢は、高校で商業科の先生になることです。

知事

実際のビジネスマネジメントのためには何が必要だと思いますか。

発言者 1

三戸高校では、早い段階からビジネスについて学べるので、その知識を社会に出てから活かせるようにしていきたいと思います。

知事

学校でしっかりビジネスについて学んで、今度は資格も取って、先生になりたいということですね。とてもいい後継者が育っています。では教育庁からもアドバイスがあればお願いします。

教育庁職員

三戸高校の様々な活動について、本当に興味を持ってお話を聴かせていただきました。この経験を活かして、さらに経験を積んでいただいて、ぜひ青森県の採用試験を受けていただきたいと思います。

発言者 2（2年、女子）

私は将来人に接する職に就きたいと考えています。BMCの授業では、青森県の特別非常勤講師に任命された起業・経営アドバイザーの小松利昭先生や、「元気あおもり応援隊」に所属されている東洋学園大学の石黒順子先生による、将来の起業を見据えた内容の授業もあります。

そこで、知事にお聞きします。青森県、特に県南地方で会社を興す際の留意点がありましたら、教えていただきたいと思います。

知事

青森県知事として、起業・創業はすごく大事なことだと思っています。私が知事に就任してからこれまで276社の企業を誘致しました。でも、一番大事なものは、地元の人が地元の技術や素材といった資本で、仕事を興していくことだと思っています。県としても、起業・創業に関わるインキュベーション、要するに商売の仕方を習ってもらったり、銀行か

からお金を借りるための書類の作り方などを習ってもらい起業家養成研修などの取組を行っています。

また、「あおり発ベンチャー大賞ビジネスプランコンテスト」という、青森で商売を始めたい人から募集したビジネスプランの中から、優秀なものを選んで応援する取組もあります。例えば、温泉でスッポンを養殖しようという、誰も思いつかないようなおもしろい事業に取り組む人も出てきています。

起業・創業について、県民局長からもアドバイスをお願いします。

三八地域県民局長

起業・創業は、まさしく地域ならではのものを使って、いろいろな事業をすることにより、地域にとっても、周りの人にとってもお金が変わっていくというような取組に繋がります。先ほど知事からお話のあったインキュベーション施設は、最初弘前に作り、順次八戸と青森にも作りました。八戸にはついこの間の10月8日に、手によりをかけるという意味で「てより」というまちなかチャレンジショップがオープンしました。ここでは、最初いろいろなことをするにしても、専門的なことがわからないということがあるため、インキュベーションマネージャーという専門の講師を定期的に派遣し、事業の進め方やお金の借り方などを勉強する場にもなっています。

やはり、三戸高校のBMCの取組のように、実践するのが一番大事だと思います。実践をしてみて、ここはまずかった、ここはうまくいったといった繰り返しの中で、いざ社会に出てみて、その後商売を始める。その意味ではBMCのような取組が出発点になると思います。ですので、BMCでもいろいろなことを大いに失敗してください。社会に出てからの商売の中でも、インキュベーションマネージャーがきちんとアドバイスしてくれます。先ほど知事からお話のあったすっぽんの養殖の取組は、実際に商売が始まっています。この方もインキュベーションマネージャーと一緒にアドバイスしてくれたので、今の商売に繋がりました。皆さんも、まずチャレンジしてみるということが大事だと思います。学校の授業の一環でよければ、インキュベーションマネージャーをご紹介しますので、相談してください。

知事

インキュベーションマネージャーが学校に来るのは、すごいことだと思うので、ぜひ来てもらってはいかがでしょうか。

県としては、企業誘致も大事ですが、地元でやる気を出してチャレンジしてくれる人たちに、資金を貸す仕組みづくりにも取り組んでいます。皆さんをしっかり支える大人がいるので、自信を持って何か商売を始めてみてください。青森県はチャレンジする皆さんを一生懸命支えたいと思っています。青森県内の人だけでなく、他から来ているいろいろなことをしたいという人にもきちんと対応します。

もし、自分でするとすれば、どんなことにチャレンジしたいですか。

発言者2

もし、起業できるのなら、青森県ではりんごなどを国外に輸出しているので、もう少し

規模を拡大して、もっと青森の良さを海外にPRしていけたらいいなと思います。

知事

りんごの海外輸出の話がありました。6千トンから始まったりんごの輸出でしたが、最大で2万5千トンまで伸ばしました。その後、東日本大震災の影響で8千トンまで落ち込みましたが、昨年は1万5千トンまで回復しました。アジア各国に富裕層が増えてきましたので、今年の12月に台湾やマレーシアにセールスに行きます。

このように、海外戦略は我々も大事だと思っていますので、あなたが起業してくれたら、一緒に売り込みに行きましょう。将来の夢を実現するために、まず英語力を鍛えてください。

発言者3（2年、男子）

2011年3月11日に発生した東日本大震災の翌日すぐに、知事が被災地を視察されていたことが印象的でした。そこで伺いますが、災害などが発生した際に、知事はどのような段取りで現地入りされるのでしょうか。

また、私は将来、医療関係の職に就きたいと考えています。特に過疎地域には病院も少なく、急病患者に対応するため、県南地域に配属されているドクターヘリにも興味があります。

もう一つ伺います。市部から離れた場所で発生した災害の際、県ではどのような対応をとるようにしているのでしょうか。

知事

大事な質問をしてくださいました。これからは、ただ防ぐだけではなくて、時間をどれだけ稼いで逃げる仕組みを作るかということが大事だということで、県では「防災公共」という取組の必要性を、東日本大震災の前から国に提案していました。特に三戸郡の場合は山が多く、最近のように予測のできないような量の雨が降った時に、一気に土砂崩れや鉄砲水が押し寄せてくることも考えられます。県では、このような土砂災害がどんな場所で発生するのか、どのように逃げる算段をつけるのかということに取り組んできました。全ての市町村と一緒に、逃げるための道路づくりをしたり、また、県内には避難所そのものが危険な箇所が50以上もあるので、どのようにしてさらに安全な場所に避難所を作れるのか、どうしても陸路を使えない時に、小学校や保育園の跡地を使ってヘリポートを確保できる場所はないかなど様々な調査もしています。

災害時の対応についてですが、東日本大震災が起きて、私は次の日すぐに車で現場に行ったのですが、災害時の最高指揮官である知事は、災害本部にいて情報を集めながら、被災者の安全確保や復旧対策のために指揮を執るのが本来の仕事であると後で専門家に言われました。どうしても災害現場に行くべき時には、防災ヘリで行き、点検したらすぐに災害本部に戻るべきだと、あれから反省しています。一定の段取りが付き、全部指示が終わってから、現場に行くということを、私自身もっと学ばなければならないと思いました。

ドクターヘリは、現在、2機体制になっています。ドクターヘリも役に立ちますが、三戸郡にはヘルスプロモーションカーを導入しています。名川病院に配備していますが、レ

レントゲンやエコーのほか、骨密度なども検査できる医療設備が付いているので、普段は医療の車として往診に行き、緊急時にはこのヘルスプロモーションカーで被災者を助けたり、命を守ることもできます。

ドクターヘリは、2機体制で出動回数も増えていますが、医療ということを考えた場合、可能な限りドクターヘリに乗らずに済むようにしたいと考えています。要するに、脳出血や心臓発作が起こらないようにするための健康づくりの方が大事だと思っています。青森県の大人は、全国で一番お酒を飲み、一番煙草も吸います。塩分の摂取量は2番目に多いです。この状況をもう少し改善したい。県民の皆さんが、自分の健康に少し気を付けて、野菜をたくさん食べてくれると、青森県の寿命も伸びてくると思います。

市部から離れた場所での災害対応については、地域防災活動をしてきている人たちや消防の方と一緒に、まず住民の避難のために動いてもらい、その後で、市町村や地元の建設業と連携しながら、土砂などをどけながら道路を復旧させることをお願いしています。そして、今一番力を入れているのが、さっきお話した防災公共という取組です。皆さんの住んでいるところが分断され、孤立しないように、橋が流されそうなところを補強したり、集落までの道路が1本だけのところを、複数の林道と農道をつないで行けるような取組をしています。

将来の夢は何ですか。

発言者3

先ほどお話にあったような、孤立しそうな避難所の近くにある病院などに就職できたらいいなと思います。

知事

嬉しいです。ありがとう。でも、青森県の場合、医者が足りないのが課題になっています。青森県からの医学部合格者数は、平成20年まで全体で30名から40名だったのが、今年は92名合格するようになってきましたが、それでもとにかく医者が足りなくて困っていますので、皆さんの中からも医学部を目指してくれると嬉しいです。

発言者4（2年、男子）

私はこの夏、地元の小学生に勉強を教える「寺子屋」という行事にボランティアで参加しました。私が小学生だった頃よりも児童数が少なく、寂しさを覚えました。実際、今後10年で三八地区の中学校卒業予定者は約800人減少し、県立高校の規模も縮小されると聞いています。将来、教師を志望する私としては、教員の採用数が減らされないか不安です。小規模の学校だからこそ、少人数だからこそ活きる学習指導もあると思いますので、ぜひ学校の存続や少人数学級の設置にも取り組んでほしいと思います。



知事

最近では、結婚する若者が減ってきていて、その結果出生率も低下し、子どもの数が少なくなってくるということになるのですが、私立学校との兼ね合いもあって、学校の再編成や統合などの準備をしないといけないという状況にあります。県としても、少子化対策として婚活事業に取り組んできました。また、若者が県内に残るためには、働く場の確保が一番大事だと思い、いろいろな取組をしてきて、有効求人倍率も伸びましたが、このような取組をしても関係がないくらい、子どもの数が減ってきていて困っています。

少人数学級については、高校や中学校でも事例があり、小学校1年、2年、3年の他に、国の動向次第では、4年でも取り組んでみたいと思っています。ただ、少人数学級をしたくても、例えばある中学校に行った時に、1学年1クラスずつで、それすらできない状況で、抜本的に少子化の問題を何とかしなければならないと思っています。

皆さんにお願いしたいのは、青森県で働く場を一生懸命作っていて、皆さんも青森で働いてくれていますので、その後結婚についても真剣に考えてくれたら嬉しいです。

青森県の人口減少は、最初、働く場が無いために県外に出ていく社会減によるものが主な原因でしたが、最近では、死亡者数よりも出生数が少ない自然減によるものになり、深刻な問題になっています。皆さんそれぞれの人生ですし、経験上、子育てが大変なことも十分にわかっていますが、かわいい子どもが育っていくのを見ると、このために生きていると心から思えますので、皆さんも少子化の問題について真剣に考えてみてください。それだけ、少子化問題は青森県にとって辛い状況にあります。

校長先生、いかがでしょうか。

三戸高等学校長

まず自分の仕事を持つこと、その次はどんな人を伴侶にして共に生きるか、そのことを考えて楽しく充実した人生を送るといった生涯の設計をして、頑張ってもらいたいと思います。

知事

校長先生のおっしゃるとおりだと思います。我々も反省して、婚活事業をもう一度しっかり頑張りたいと思います。

教育庁からも先生になるためのアドバイスをお願いします。

教育庁職員

三戸高校の皆さんは、特色あるコースの中でいろいろな勉強をしてきていると思いますので、まず自分の専門分野を決めていただいて、何とか青森県の子どもたちの教育に活かしてもらえるように頑張ってもらえば、必ずその枠はあると思いますので、それを信じてぜひ採用試験を受けてください。

知事

青森県の子どもたちのために、将来の夢に向かって前進してください。

発言者5（2年、女子）

私は将来ヘアメイクアップアーティストになりたいと考えています。進学や就職のための試験を1年後に控え、私たち2年生も進路を意識しなければならない時期になってきました。私は美容系の専門学校に進学を希望し、進路研究を行っているところです。私の周囲でも県外に進学、就職を希望する人がいますが、青森県に戻ってくるとは限りません。

そこで、お願いがあります。県外に出た10代、20代の若者が何としても地元に戻りたくなるような取組を計画していただけないでしょうか。

知事

実は青森県出身で、ハリウッドでメイクの天才と呼ばれる方がいます。この世界では、技術がしっかりしていればどこでも活躍できると思うので、ヘアメイクの専門学校に行くにしても、英語の勉強もしてくれると嬉しいです。

青森には、ボーリング場やゲーム機を置いているアミューズメント施設ができてきましたが、このような施設がたくさんあると、若い人がとても喜ぶので、知事は企業誘致ばかりではなく、このようなアミューズメント施設もしっかり誘致してくださいと注文が出ています。私自身、今まで雇用というと、ものづくりや、データセンター、コールセンターといった昔風の考えでずっと企業誘致に取り組んできましたが、最近では、アミューズメント系の企業や施設を誘致すると、そこに若い人たちが集まるし、働く場にもなるし、青森もおもしろくなったなということを皆さんが考えるようになるのではないかと思うようになりました。

最近では、外食やファーストフードのフランチャイズ店は全国各地で当たり前になりました。皆さんにもいろいろな考えがあるかもしれませんが、我々のように地産地消を進めたり、地元のものでいろいろなことをしようとする立場にしてみれば、そのようなお店が増えることが、本当に若い人たちにとって幸せなのかなということを考えた時、青森県にはこんなすばらしいところがあると気づいてもらい、皆さんにも青森っていいなあと思っ



てもらえるように、県庁で「自慢したくなるあおもり推進事業」という取組をしています。皆さんが大人になり、家庭を持ち、自分の人生を考えた時に、青森が持っているいいところに気がついてほしいと思っています。アミューズメント施設についても企業誘致の一つとして取り組みたいと思っていますが、すごく地味かもしれないけれども、奥入瀬溪流の美しさや、1万年以上も前に青森で生活を営んでいた縄文遺跡群の歴史的価値など、青森の持っているすばらしさというものにも気づいてくれると嬉しいです。

県庁の「まるごとあおもり情報発信チーム」では、青森にあるいろいろなおもしろいコンテンツを情報発信していますが、県外の方が楽しそう、おもしろそうということで来てくれたおかげで、東日本大震災以降、観光客が戻ってくるようになりました。従来の観光地のほかに、今まで我々にとってはごく普通でその魅力に気がつかなかったキリスト

の墓や恐山などが、日本中のたくさんの方に興味を持ってもらえるようになりました。また、韓国の写真家の方が、韓国にも朝鮮半島にも無くなってしまったアジアの寒い地帯の原風景が青森には残っていると伝えてくれて、青森に写真を撮りに来て来てくれています。青森にはこんなにもおもしろいところがあるということを、我々としても価値として売り出していきたいと思っています。

若い人たちが帰ってくるために、あるいは出ていかないために一番大事なのは、仕事づくりだと思っています。そのために企業誘致や起業・創業という取組も続けていますが、もう一度青森の持っている価値に気がついてくれて、青森っていいな、いい場所だな、すごいなと皆さんが思うようになってくれたら嬉しいです。

広報広聴課長

県外に向けての青森県のPRやイメージアップも県の仕事にあるのですが、先ほど知事がお話しした「まるごとあおもり情報発信チーム」が、県内にあるいろいろないいところを見つけてきて、それを素材にテレビ局などに売り込み、取り上げてもらうことで、青森が皆にとって住みやすい場所だと思ってもらうための取組をしています。

また、広報広聴課では、皆さんが最近使っているスマートフォンなどの新しいメディアを使って、現在県庁で平日午後4時30分から5時15分まで、ユーストリームを使った生放送番組「あおもり県庁なう」を発信しています。皆さんもパソコンを使うことがあると思うので、ぜひ県庁の生放送発信も見ていただいて、青森をどんどん好きになっていただき、将来県外に出たとしても、また青森の良さを知って戻って来られるようになっていただければ嬉しいです。

私自身、韓国のソウルで2年間仕事をしてきましたが、韓国から青森を思い出してみると、これほど良いところは、おそらく日本にも外国にもそれほど無いと思います。皆さんも自信を持って、どんどん青森の良さを経験して、県外の人にも伝えて、青森に行きたいと思ってもらえるように、情報発信をしていただければと思います。

知事

我々としても、まず働く場を作ることに一生懸命取り組みます。そして、皆さんが遊べて、そこでも働くことのできるような新しいタイプの産業も誘致してみたいと思います。そのようなことを地道に積み重ねていくのと併せて、青森が持っている普遍的な価値、すごいいいなと皆さんが思ってくれるものを、いろいろな形で情報発信して、日本中、世界中の人たちが青森に行ってみたい、青森っていいなと思えるようになってもらい、そのことが青森の若い人たちにも、自分の故郷はこんなにすばらしかったんだ、こんないい場所で生まれたんだと気づいてもらい、帰ってきてくれる人が増えるようにしたいと思っています。

もちろん、UターンやIターン、Jターンの取組もしていますが、攻めの農林水産業の取組をしながら、あちらこちらでいろいろな人たちとセールスをしながら、青森の良さを話していく中で、最近、青森であればいい作物を作るチャレンジができるということで、新しく農業や漁業を始めたいと考えて、県外から青森に来てくれる人たちが出てきています。良い土、良い水、おいしい空気といったすばらしい環境の中で、地域の人たちとも仲

良く支え合うことを大事に思う人たちが増えてきたと感じています。

我々が段取りしておいたこと、作っておいた仕組みなどについて、ああそうだったんだといずれ皆さんに気づいてもらえるように頑張っていきたいと思います。

将来の夢を実現させるためにどうしていきたいですか。

発言者5

英語もそうですが、他の教科にも力を入れていきたいと思っています。

知事

夢に向かって頑張ってください。

◆知事所感◆

若い人たちがもっと青森に興味を持ってもらうために、悩みながら、だからこそ小学校や中学校、高校を訪問させていただいて、皆さんから直接聞く言葉を大事にしながら仕事をしています。今日は、商売を興す話を始めとして、皆さんからいろいろな夢を聞くことができました。意見交換をしたのは5人だけですが、周りで聴いていてくれた皆さんは、仲間や同級生たちがこのようにいろいろなことを考えているんだとか、いろいろな夢を持って進もうとしているんだとか、夢を実現していくために行政にこうしてほしいと発言してくれたということを感じてくれていると思います。

皆さんがよりよく生きていくためには、皆さん自身が努力しなくてはならない部分もありますが、命を守る仕組みや働くために頑張れる仕組みづくりをするのが我々の仕事だと思っています。それは全て未来のためだと思っています。未来を担い、未来に生きる皆さんが、我々の年代が段取りをしておいたことをさらに活用し、幸せな青森県づくりのために、あるいは日本、世界のために伸ばしていく。そのためにお互いに努力することを始めてくれる。要するに、未来のために今しっかりと我々が段取りをしなければならないと思って仕事をしています。

未来に輝く皆さんと会うことができ、大変嬉しく、幸せに思っています。皆さんが健康でいてくれて、未来に向かってそれぞれの人生を自立して歩いてくれることを心から願っています。

今日は本当にありがとうございました。

